

地域の中で一人一人が参加する環境保全型街づくり

特定非営利活動法人 せっけんの街

特定非営利活動法人せっけんの街（NPOせっけんの街）は、豊かな自然環境に恵まれた住みよい街を次世代に残すため、地域循環型の社会を目指して活動しています。私たちNPOせっけんの街は千葉県にある手賀沼、印旛沼近隣に2つの使用済み食用油（廃食油）をリサイクルする施設を持ち、近隣14市町村から出される廃食油を回収、せっけんやバイオディーゼル燃料に再生し、地域に返していく活動を展開しています。またその経験を活かし、小学生や中学生などの環境授業を企画運営しています。リサイクルせっけんの生産量は通算3000トン、リサイクルした使用済み食用油は2000トンになります。リサイクルせっけんは一般家庭や学校給食、福祉施設の調理場などで利用されています。

始まりはせっけん運動

1980年、全国一汚いと言われている「手賀沼を守ろう!」と、生協、漁協、労働組合、自然保護団体などが参加し、共に行動を始めたのが、NPOせっけんの街の活動のはじまりです。当時は経済発展が優先され、各地で公害問題が騒がれ、都市部の河川や湖沼は汚染が進みとてもひどい状態でした。活動を進めていくうちに、手賀沼の汚染源は近隣から流れ込む家庭雑排水だということがわかりました。当時、洗濯に使われる合成洗剤に含まれるリンが富栄養化現象を起こし、沼の水質汚濁の原因になっていました。自然を守り生命を守ることを洗剤メーカーや行政の責任とするのではなく、住民自身が手賀沼や印旛沼を汚す加害者であることを自覚し、私たち自身の生活スタイルを変えることで、沼をはじめとした水環境を少しでも改善できないかと考え、合成洗剤をやめて環境に負荷の少ないせっけんをつかう暮らしの提案を始めました。



手賀沼風景



印旛沼風景

日本で初めての市民出資によるリサイクルせっけん工場建設へ

またそのほかにも水環境に悪影響をもたらしているものが、雑排水とともに流されていた使用済み食用油（以下廃食油）でした。ゴミとして捨てられていた廃食油から良質な水環境に負荷の少ないせっけんができることを知り、市民出資による、リサイクルせっけん工場を建設する活動を始めました。趣旨に賛同し出資した市民は1万人を超え、1985年、柏市に「手賀沼せっけん工場」は建設されました。同時に私たちは地域住民と共に廃食油の回収活動を始めました。賛同する方の家にポリタンクを置いてもらい、そこに地域から使い終わったてんぷら油を集め、その方たちに私たちの



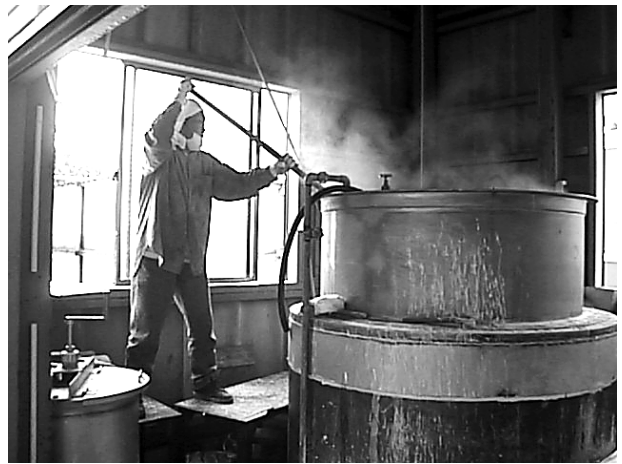
紙芝居



せっけん焚きの実験



地区の祭りで実演



釜焚き

工場できたりサイクルせっけんを買ってもらうのです。私たちはこの拠点を「せっけんセンター」と呼び、この方法は活動を開始して約1年で280か所と千葉県下に急激な広がりを見せました。

手賀沼せっけん工場が操業を開始し、約25,000世帯から出る廃食油が回収され、月12トンの粉せっけんが生産され、家庭で使われるようになりました。生産の現場では雇用が生み出され、障がい者とともに働く職場ができました。私たちは思いを込めて誕生したりサイクルせっけんを「せっけんの街」と名付けました。そこで私たちは、たくさんの人々の思いが形になり、それが街を作っていくということになると気づきました。私たちが作りたい街への思いが一つにまとまり、せっけんの街構想が生まれました。

自然と人が共生する街

人と人が共に育ち、横の人間関係を広げる街
 使い捨てではなく、リサイクルによって成り立つ街
 個人の自立によって、地域社会をおおぜいの私で運営する街

働く意味を考え合い、労働の価値を高めている街
 多くの人が生活の場で働くことのできる街

これらの構想は今でもNPOせっけんの街の活動の指針になっています。10年後、もうひとつの汚れた沼、印旛沼の近隣に「印旛沼せっけん情報センター」を建設しました。その間地域で志を同じくする他の団体とのネットワークを広げていきました。

NPOせっけんの街の活動

○NPOせっけんの街は会員で運営されています。

「次の世代に豊かな環境を残したい、住みよい街を作りたい」そういう思いを持つ人々が集まり、NPOせっけんの街は誕生しました。会員は多様な活動の場を提供されています。廃食油回収に協力する。イベントなどでせっけんのアピールをする。子どもたちの環境授業の先生になる。リサイクルせっけん工場で働く。会費を納めて会の活動を応援するなどなど、思いを同じくする人々が街を作っていくと考えます。



使い方講習会

○健全者と障がい者が共に助け合いながら働く職場づくり

NPOせっけんの街は、ユニバーサル就労の先駆けとして、手賀沼工場に1名（勤続28年）、印旛沼工場（印旛沼せっけん情報センター）に1名（勤続12年）の障がい者が勤務しています。また「ほくとの家（NPOありのま）」にせっけんの袋詰め作業を委託しています。健全者と障がい者がお互い助け合いながら工場運営を行っています。

○廃食油回収・再利用のための活動

NPOせっけんの街の活動は、「環境に排出されることで環境に悪影響をもたらす合成洗剤を使わず、環境に負荷の少ないせっけんを使いましょう」という活動です。千葉県内各地の家庭や事業所から使用済み食用油（廃食油）を回収し、せっけんやバイオディーゼル燃料に再生、地域に返していく活動をしています。リサイクルの環は再生品を上手に使って、はじめて完結します。さまざまなイベントに参加し、リサイクルせっけんのアピールをしています。

私たちの毎日の生活の中で、PRTR制度^(※)の指定物質が含まれる洗剤をせっけんに変えることで、それら環境に悪影響があるとされる化学物質を減らすことができます。またせっけんは分解も早く、排出後の環境への負荷も少ないことが知られています。しかも、原料は使用済み食用油、まさに環境にやさしい地産地消の循環型街づくりへの第一歩です。廃食油ーリサイクルせっけんのネットワークを広げることは、私たちの最大の使命であり目標です。

○環境に悪影響があるとされる化学物質を「買わない・使わない・排出しない」生活への提案

私たちの生活にはいろいろな化学物質が氾濫してい

ます。PRTR制度の指定物質の中で、家庭からの排出量で最も多いのが合成洗剤の成分です。そのほかに多いのが殺虫剤の成分です。この2つの物質を使わないことで、家庭からの指定物質の排出量を限りなくゼロに近づけることができます。そこでせっけん以外にも、環境に配慮した商品をインターネットなどで提供をしています。生活の中でこれらを選択することで環境に排出する量を少なくし、持続可能な社会を作ることを目指しています。

○環境学習・ワークショップの企画運営

次世代を担う子供たちに環境への関心を持ってもらうことは重要です。毎日の生活が環境に直接影響をもたらしている現実を知ることで、少しでも環境に負荷の少ない生活を選択する力、今よりもう少し先を見る力を養うために、小学校などの環境授業に講師を派遣しています。またリサイクルは再生されたものを上手に使ってはじめて環になります。また、せっけんの使いかた講座を開くなど、広くりサイクルせっけんの普及活動を続けています。子どもたちの環境授業では、楽しく環境を学ぶ機会をと、環境クイズラリーなどを実施してい



環境学習



環境クイズラリー



環境学習



印旛沼船上見学

ます。また、近隣の市町村の学校を対象に、リサイクルせっけん工場の見学を提案しています。使用済み食用油—せっけんのリサイクルは実際に全体が目に見えるという点で環境授業のよい教材になると考えます。使い終わった天ぷら油がせっけんになる様子を見ての子供たちの反応は様々ですが、後に「家に帰ってお母さんとせっけんのことを話しました」「これからはせっけんで自分の上履きを洗います」などという感想をいただくことが多く、スタッフの励みになっています。(講座実施件数：年間20件程度)

○雨水タンクの普及活動

かつての風光明媚な手賀沼や印旛沼を取り戻すこと

は私たちの願いです。近年では、下水道の整備、PRTR法制度が施行されるなど、環境面で改善されている部分もありますが、相変わらず2つの沼とも常に全国汚れた湖沼ワースト10に名を連ねています。下水道の整備により、家庭雑排水の流入量は減少傾向にありますが、沼周辺の開発が進み地面がアスファルトや建物で覆われることで、雨水が地面に浸透せず、一気に沼に流れ込む現象が起きています。近年のゲリラ豪雨と相まって、雨水と一緒に流れ込む車の排気ガスや市街地の汚れは年々増加しています。また印旛沼周辺では成田ニュータウンなどの開発とともに湧水が減少し小さな小川が減りました。産卵場所が減ったために、小魚が減ったということも、地元の漁師に聞いています。

そこで、雨水を貯め水やりや打ち水に使うことで、雨水を一度地面に浸透させ、水循環を取りもどす方法として、雨水タンクの普及活動を始めました。ゲリラ豪雨の時などには、家庭が小さなダム役割を担うことになります。

災害時の水の確保という防災の観点からだけではなく、水環境を取り戻すためにも、「家庭の小さなダム計画」活動を進めています。

○使用済み食用油リサイクルせっけん作りなどの提案をもとに、回収運動のためのシステムや方法、せっけん作りに関する技術の提供、販売等の様々な分野にわたる情報提供と活動を行っていくため、1991年にリサイクルせっけん協会が設立されました。設立当初からNPOせっけんの街はその関東事務局として、関東地区でリサイクルせっけん作りをしているグループと一緒に技術セミナーを開催し、せっけんの製造技術の向上や環境や身体に対する優位性の勉強会などを通して、地域にリサイクルせっけんの輪を広げる活動をしています。

今後の課題

30余年間の活動を支えてきた原動力は「活動と事業」の両輪に寄るものだと考えています。事業面という車輪は、総計2万人の人々の出資で建設された2つのリサイクルせっけん工場を維持し、リサイクル事業を採算に乗せること。活動面という車輪は各地域のメンバーが、誰もが日常生活の中ですぐに参加できる環境活動としてリサイクルせっけんのよさを継続してPRしてきたことが挙げられます。流せば水環境を悪化させる廃食用油は良質なせっけんの原料であること、また環境に優



リサイクルせっけん技術研修会



セミナー千曲

しいりサイクルせっけんを使うことは一人一人が環境について考える機会でもあることを伝え続けてきました。しかし、おおぜいの私たちも一緒に年齢を重ね、次の世代に引き継がなければならない時が来ていること、それにも関わらず、世代交代が順調に進んでいないこと、今私たちに課せられた大きな課題です。

そこで、私たちは次の行動目標に2つの指針を掲げました。

○活動を支えている会員にも高齢化が進んでいます。そのためには、新しい会員を獲得することで、

次の世代に活動を引き継いでいくことが最大の課題です。多様な参加の形を提供することで、おおぜいの人々がNPOせっけんの街にかかわることのできる組織作りを目指します。そのためには外に開かれたわかりやすい組織を作っていくことが必要です。多様な人々がかかわるといことは、事務局体制の強化など組織マネジメント力も大切です。

○約2万人の人々の思いを集めて建設された2つのせっけん工場です。しかし運動から始まった組織ゆえに経営面で軟弱であることは否めません。リサイクルせっけん製造はNPOせっけんの街の基本であることを確認し、確実に次の世代につないでいきます。そのために、製造技術の継承や採算ラインを考えた経営の安定化などが課題です。生活様式の変化とともに、せっけんの使用率は年々減少しています。新製品の開発や品質の向上などを通して、新しいせっけんの利用者を増やしていくための活動を進めていきます。

「生まれてくる新しい生命のために 豊かな自然を残したい 住みよい街をつくりたい それが私たちの願い」です。

(※) PRTR制度

有害性が疑われる化学物質が、どこから、どのくらい、環境(大気・水域・土壌など)中へ排出されているか(排出量)、廃棄物などとして移動しているか(移動量)を把握し、集計・公表する仕組み。環境中の化学物質のリスク低減を目的とする。1999年に公布された。

特定非営利活動法人 せっけんの街